

学校レジリエンス支援「みらいぶらりい」事業（レバノン）最終報告

国際医療救援部 国際救援課 李壽陽

（派遣期間：2018年3月～2019年3月）

（報告日：2019年3月23日）

レバノン国内では現在、日本赤十字社と現地赤十字社による3つの事業が実施されています。そのうちの1つが、「みらいぶらりい」の愛称で親しまれている学校支援事業です。本事業は、レバノン赤十字社（以下、レバノン赤）とともに、2018年1月より、3年の事業期間の予定で開始されました。

2018年3月からレバノンへ派遣され、事業管理要員として「みらいぶらりい」事業に関わりました。2019年3月に1年の任期を終えて帰国しましたので、ご報告いたします。

なお、本事業は、国際ソロプチミストアメリカ・中央リジョン様から本院国際医療救援部へのご寄付を原資として1年目の事業を行なっております。事業の背景および内容詳細については、当院ホームページに掲載の事業中間報告（報告日：2018年12月15日）もあわせてご覧ください。

[https://www.osaka-med.jrc.or.jp/aboutus/international/pdf/006\\_128.pdf](https://www.osaka-med.jrc.or.jp/aboutus/international/pdf/006_128.pdf)

本事業では、シリア難民とレバノンの子どもたちが、より安全な校舎で安心して楽しく学べるやさしい教育環境の提供を目的として、各支援校のニーズを聞き取り、校内の改修をおこないました。本事業を通して、レバノンの公立学校関係者およびレバノン赤職員と関わり話しを聞いたところ、2018年に支援した以下の3校の抱える事情は実に様々で、それは「シリア難民とレバノンの子どもたち」という枠を超え、中東の小国レバノンが国内外で抱える複雑な実状を露呈したものでした。

学校名	(英)	AlQobeh School	AlM asaken School	AlShaabeye School
	(和)	アル・コベール・スクール	アル・マサカン・スクール	アル・シャハビー・スクール
所在地域		北部 トリポリ	南部 ティール	南部 ティール
学生数	レバノン	264	294	647
	シリア	386	736	553
	他	15	19	30
	計	665	1049	1230
ニーズ		講堂、本棚	講堂	講堂、図書室
		<b>貧困地域 武力衝突（2008～2014年） 外壁に多数の銃痕</b>	<b>貧困地域 シリア難民の学生多数</b>	<b>イスラエルとの戦争（2006年） による影響、校舎一部破損</b>

2018年の支援校（基本情報）

北部トリポリにあるアル・コベール・スクールの校舎は度重なる地域間武力衝突に曝され疲弊していた一方で、南部ティールに位置するアル・シャハビー・スクールの校舎はイスラエルとの戦争により大きな被害を受けました。また、南部ティールにあるアル・マサカン・スクールでは、シリア難民人口の多い地域に位置することから、難民がレバノンの学生数を大きく上回り、学校のキャパシティは限界に近い状

態にありました。



地域間の武力衝突により、多数の銃弾を受けた校舎  
(レバノン北部トリポリ、アル・コベール・スクール)



イスラエルとの戦争により被害を受けた校舎  
(レバノン南部ティール、アル・シャハビー・スクール)



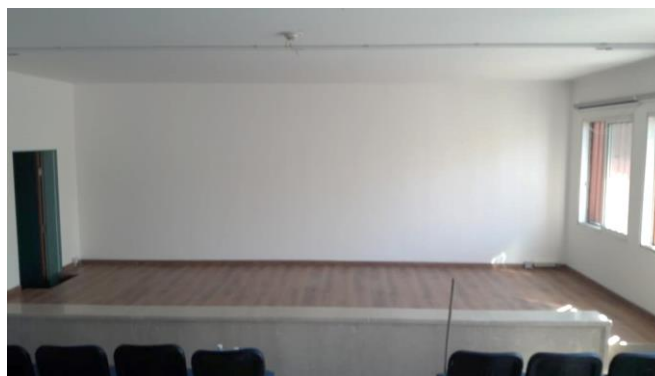
校長先生とレバノン赤職員から話を聞く  
(レバノン南部ティール、アル・マサカン・スクール)

地域により様々な事情がみられましたが、紛争を経験した子どもたちが学校に通うという点は共通していました。事業を通して各支援校の教育環境整備(学校改修)に割り当てられた経費上限は8,000ドル(約90万円)と決して大きな額とはいえません。しかしながら、子どもたちと教職員、保護者、地域住民の方々が一同に集まり交流する場となる講堂を改修したり、子どもたちの学びの意欲を刺激する図書室を整備したりしたことで、この事業が裨益者へもたらすインパクトはたいへん大きいと考えます。

実際に、2018年の各支援校では、講堂改修直後からたくさんの催しが企画され、子どもたちが歌やダンス、演劇を披露したり、地域住民の方々向けの保健衛生教育セミナーや生徒たちのクイズ大会などが開催されたりしていることが確認できました。これらの行事に、改修した校内設備が積極的に活用されることで、子どもたちのみならず、周辺地域へも貢献できたことは事業の成果といえます。



改修前の舞台（講堂）



改修後の舞台（講堂）

レバノン北部トリポリ、アル・コペー・スクール



2019年以降も、紛争の影響を受けた子どもたちが少しでも安心して楽しく学べる平和的な空間を提供できるよう、レバノン赤十字社とともにこの支援事業を続けてまいります。

今後とも、本院の国際活動にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

※ 本院の活動は、日々国際医療救援部の公式フェイスブックにアップしています。